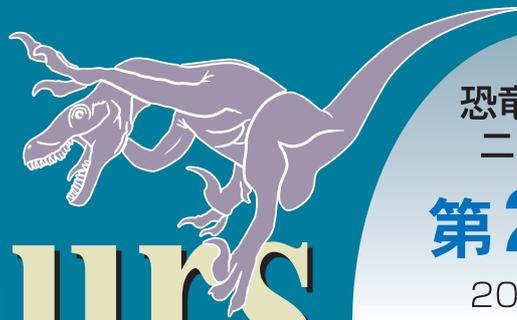


# 恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館  
ニュース

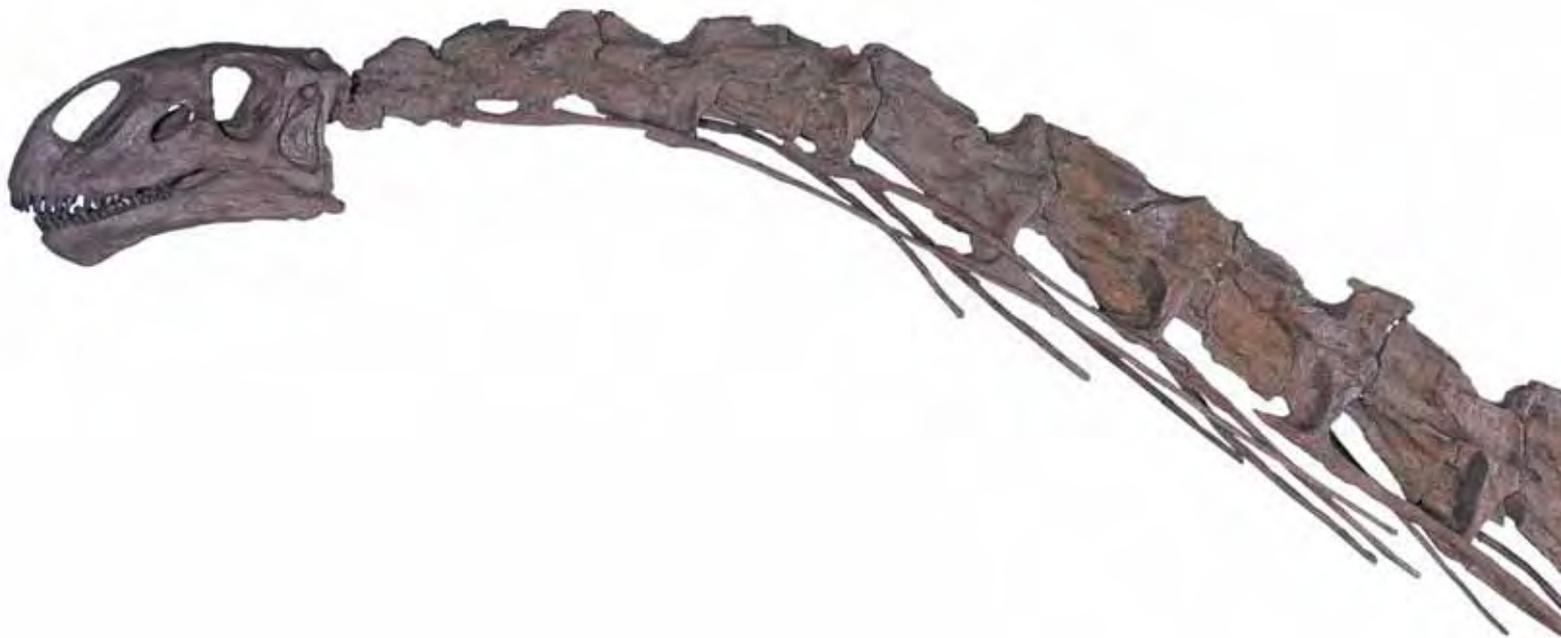
第24号

2008.9.1

福井県立恐竜博物館

## 特集：千秋学芸員の恐竜発掘日誌

- 目次 ▼特集：「千秋学芸員の恐竜発掘日誌」…2～3 ▼特別展「K/T—絶滅期の恐竜と新時代の生き物たち」…4～5  
▼恐竜シンポジウム開催／恐竜キッズページ開設／中国恐竜調査報告…6 ▼ダイノメイトだより…7  
▼2008年9月～12月催し物案内／編集後記…8



### マメンチサウルス・ホチュアネンシス

*Mamenchisaurus hochuanensis*

竜盤目 竜脚形亜目  
ジュラ紀後期  
中国 四川省 重慶市



2008年夏

# 千秋学芸員の 恐竜発掘日誌



## 9 発掘日誌の一日



足跡の形を写し取ります

ひとこと言えれば、現場で撮影し、映像を編集して、YouTubeに投稿、となりますが、これがなかなか手間と時間がかかります。

現場で撮影するためには、発掘現場まで20分弱移動しなければなりません。さらにその際には人間の方の切り替えも必要です。冷房の効いた館内と炎天下の現場。デスクワークとフィールドワーク。この切り替えに体が順応するまで酷暑こくしょのせいもあり前半は疲労困憊ごんぱいでした。そして現場へ行っても、当たり前ですが見応えある標本や場面が用意されているわけではありません。何をどう撮影してどう編集するかは私の裁量とされており、この標本は写して良いのか、この作業はどうか、昨日と違う出来事はないか、などいつも考えていました。

現場から戻れば編集作業が待っています。まずは細切れのビデオをチェックして使える素材をより分け、ナレーションと構成を考えます。この時、一般の方が現場に来たならということ念頭に置いて、構成をしています。次にナレーションですが、素人同然そつきようの私が即興ではできませんので、台本はきっちり書き出しています。この台本は日誌ページに転記していま

## 9 発掘日誌ができるまで

この日誌は私の個人名がついているということで、私が見た現場の様子を1人称で語っています。私は発掘現場に常駐していられたわけではありませんので、当然見られない場面や標本、出来事があります。また当館の研究職員たちも発掘に携わっており、それぞれの専門からの所感があるとは思いますが、あえて一貫性を考えてこのようにしています。

発掘日誌のページの構成は、近年定着の感があるブログ風になっています。ブログは最新記事を常に最初に据える構成で「日誌」ページとして適していますし、ブログを閲覧し慣れている方にとっては違和感なく閲覧できると思われるからです。また動画はYouTubeに投稿し、そのデータを発掘日誌のページで再生できるようにしています。YouTubeが動画共有サイトであることで議論はありましたが、再生環境拡大や広報効果のメリットから設置を決定しています。今後も公立機関でこうした利用があることでしょう。

## 9 「千秋学芸員の恐竜発掘日誌」とは?

今年の夏も、第三次福井県恐竜化石発掘調査が福井県勝山市北谷町において、7月14日から9月6日まで行われました。

このような調査では通例、開始のみアナウンスがあり、その様子はどうであったかは成果報告まで知ることができません。それ以前に、発掘調査の手段・手順、また調査員の様子などは、一般の方は知ることができません。たまにテレビ等での報道はありますが、実際に放映を目にする機会は限られます。

今回発掘の様子をお知らせしようと、現場に定点カメラを設置してインターネット経由で見られるように当初計画しましたが、山奥である現場までのアクセス回線費が尋常ではなく断念しました。そこで私が映像を撮影して適宜公開することになりました。題して「千秋学芸員の恐竜発掘日誌」です。



ハンマー隊のようす

すので、音声を出せないパソコン環境でも内容を把握できると思います。

最後はビデオ編集ソフトから動画を生成してYouTubeに投稿するのですが、非力な環境ゆえか1時間程度かかってしまいます。この時間を使って、台本の転記やサイトの更新を行っています。

### 9 発掘日誌の成果やいかに

発掘調査の(ほぼ)リアルタイムな公開という目新しい試みだったわけですが、希望通りには再生数は伸びませんでしたね。エンターテイメ

ント系動画と比べるとは無謀ではありますが。

それでも一過性のもではありませんので、着実に再生を重ねていくことでしょう。恐竜博物館カレッジの発掘現場見学参加者の方が「ほら！発掘日誌で見たあの崖だよ！」

と言っているのを聞いたり、発掘に参加した学生から「発掘日誌を見て勉強してきました」と言われたり、現場訪問者から「更新、滞ってるね」と言われて恐縮したりと、地道ながら広がりを実感することもありました。

「福井県の発掘現場ってどんなところ？」とか「発掘調査ってどうやってるの？」という要望には応えられるものとは思っています。

現場での発掘はあと2年行われますが、発掘日誌も同様にお送りします。来年は



恐竜の骨化石



ワニの歯(?)の化石

よりパワーアップした発掘日誌をお届けしたいと考えております。来年の夏をお楽しみに。といったところで、いつもの言葉で締めさせていただきますと思います。ではでは。

(千秋利弘)



岩をなめるように観察します

### ■FPDM:千秋学芸員の恐竜発掘日誌2008

<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/research/2008excavation/>

### ■恐竜博物館@YouTube

<http://jp.youtube.com/user/FukuiDinosaurs>



ぜひ  
ご覧ください！



# 福井県立恐竜博物館 特別展 絶滅期の恐竜と 新時代の生き物たち

白亜紀

第三紀

平成20年7月11日(金)~10月13日(月・祝)  
の92日間

※ただし、9月10日、24日、10月8日は休館  
開館時間：午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

恐竜時代の終焉(山本 匠)

## 今度の特別展はK/T

Kとは白亜紀(K:ドイツ語でKreideの頭文字)、Tとは次の時代である新生代第三紀(T:Tertiaryの頭文字)を意味します。約6500万年前の白亜紀-第三紀境界(K/T境界)に、陸上と海洋の両方で生態系の大きな変化が起きたことが分かっています。恐竜をはじめとする様々な生物に影響を与えた白亜紀末の大絶滅の原因は、巨大な隕石が衝突した影響であるという説に多くの人々が関心をよせていますが、その証拠や境界付近の化石資料について目にする機会はほとんどありません。また、哺乳類はこの絶滅後に大型化し、恐竜に代わって陸上を支配するようになりますが、第三紀初め頃の哺乳類は国内ではほとんど紹介されていません。

今回の特別展では、恐竜時代の最後である白亜紀後期から、哺乳類が主役となる新時代(新生代第三紀)にかけての大絶滅と生物進化をやさしく解説しています。展示は時間軸に沿っ

た4つのゾーンに区分されています。白亜紀後期の恐竜はもちろんのこと、ベルギー、イタリア、メキシコ、カナダ、日本(北海道)など世界各地で発見された白亜紀-第三紀境界層の関連資料や、日本初公開となる風変わりな原始的な哺乳類化石など大変貴重な資料を公開しています。

この特別展はアメリカのカーネギー自然史博物館とミシガン大学古生物学博物館をはじめ、中川町エコミュージアムセンター(北海道)、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立科

学博物館(東京)、神奈川県立生命の星・地球博物館、天草市立白亜紀資料館(熊本県)の協力を得て、約360点の標本を公開しています。会期も残りわずかとなりました。是非ともお見逃しなく!

特別展関連行事  
特別展解説ツアー  
(特別展担当者による)

9月14日(日)・10月13日(月・祝)

## 白亜紀後期の海

白亜紀末の絶滅は陸上と海洋の生物に及ぶ大規模なものでした。導入部でもあるこのゾーンでは、白亜紀後期の日本付近で栄えた首長竜類やアンモナイト類を例に当時の海洋古環境を紹介します。北海道とロシアのサハリンは、恐竜時代の終わりごろの海にすむ生き物たちの素晴らしい化石が見つかることで世界的に有名です。今回は1mもあるようなアンモナイトや、様々な形のアンモナイト、大きな笠のような巻貝、そして首長竜の実物骨格や復元骨格などを展示しています。



白亜紀後期の海(風 美衣)



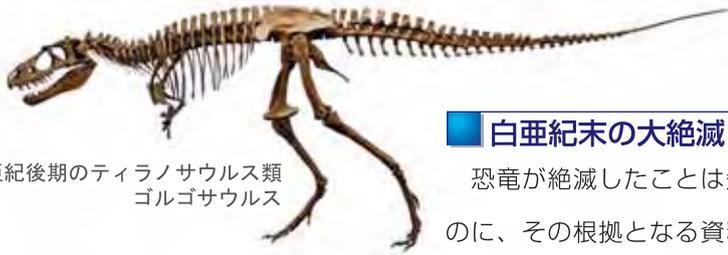
白亜紀後期の恐竜たち(山本 匠)

末(約6500万年前)の大絶滅について解説します。アメリカのサウスダコタ州のサンディサイトから発掘された白亜紀末の恐竜とその他の爬虫類の化石、世界各地の白亜紀-第三紀(K/T)境界層や、それに関連する貴重な資料を公開しています。

## 白亜紀後期の恐竜

白亜紀後期はそれ以前の時代に比べてより特殊化した恐竜が多く現れた時期です。肉食の恐竜として知ら

様々なデザインのもが見られます。このゾーンには白亜紀後期の恐竜たちが集まっています。



白亜紀後期のティラノサウルス類  
ゴルゴサウルス

れる<sup>じゅうきゃくろい</sup>獣脚類では、極端に小さな腕と非常に大きな頭を持つティラノサウルス、歯を失い大きな<sup>くちばし</sup>嘴を持つ鳥のような姿のオビラプトル類、小さな頭とスマートな体を持ち、走るのが得意なオルニトミムスの仲間などが知られています。草食の恐竜では、ハドロサウルスの仲間や、頭に様々な飾りを持つパキケファロサウルスの仲間がこの白亜紀後期に栄えました。また角竜類もこの時代に繁栄し、頭のフリルや角に

## 白亜紀末の大絶滅

恐竜が絶滅したことは知っているのに、その根拠となる資料はなかなか見る機会がありません。白亜紀と第三紀の境界(K/T境界：約6500万年前)で起きた絶滅は、小惑星(隕石)が地球に衝突した事にその原因があるという仮説が提唱されてから、その時期の連続した記録を残す地層に注目が集まっています。このゾーンでは、白亜紀-第三紀(K/T)境界の地質資料や、絶滅前の恐竜化石、また生きのびたものたちの化石を通して白亜紀

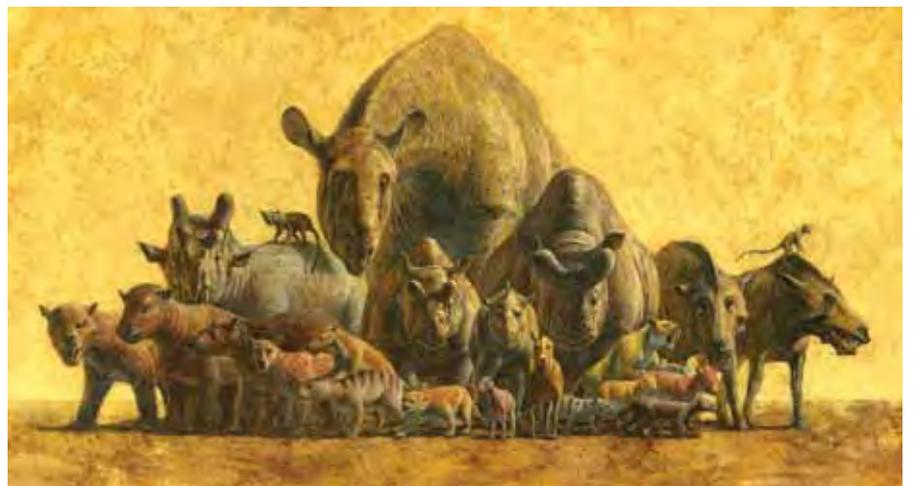
## 新時代の哺乳類たち

このゾーンでは風変わりな絶滅哺乳類や、現在生きている哺乳類たちの祖先(最初の肉食獣、草食獣、霊長類たちの化石など)、また当時の生態系の頂点にいた飛ばない大型肉食鳥などを通して新しい時代の幕開けについて紹介します。このゾーンの化石の約80%は日本で初めて展示・公開される哺乳類の化石です。現在のものとは異なる奇妙な姿の哺乳類や、初期の哺乳類を襲っていたと考えられる巨大な鳥の化石も展示します。アメリカの歴史あるカーネギー自然史博物館とミシガン大学古生物学博物館が収蔵するこれらの化石は、今回を逃すと国内で見える機会はないかもしれません。また、ほぼ同時期に栄えた日本最古の大型哺乳類たちも紹介します。

(宮田 和周)



始新世の大型鳥類  
ガストルニス(ディアトリマ)



新生代初期の哺乳類たち(山本 匠)

## 国際恐竜シンポジウム2008開催

2008年3月22日・23日、当館にて「国際恐竜シンポジウム2008アジアの恐竜研究最前線」を開催いたしました。中国をはじめ計7カ国16名の恐竜・古生物研究者が参加し、初日は中国科学院の董枝明教授による「アジアの恐竜」と題した基調講演のあと、参加者がそれぞれの研究成果を発表、熱い議論が行われました。2日目にはパネルディスカッションも行われました。会場には多くの方々が集まり、最新の恐竜研究発表に熱心に耳を傾けていました。

本シンポジウムの発表内容が分かる予稿集は当館Webサイトからダウンロードすることができます。

■国際恐竜シンポジウム2008  
-アジアの恐竜研究最前線  
<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/research/sympo/>



シンポジウムの様子

## 恐竜キッズページ開設

恐竜博物館のWebサイトに恐竜だいきなキッズのためのページ「恐竜むらへようこそ!」を開設しました。

「不思議な村『恐竜むら』へついでに『タケシくん』と『ナオミさん』が、村の恐竜たちに恐竜のことを教えてもらう」というコンセプトで、子供たち楽しく学んでいます。よみもの、発掘ゲーム、恐竜クイズや動画もあり、なかなか楽しいコンテンツとなっていますよ。あなたも、ぜひ訪れてみてください。



■FPDM: 恐竜むらTOPページ  
<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/kids/>

## 中国山西省恐竜調査報告

2008年5月17日(土)から22日(木)まで、中国山西省大同市周辺において、姉妹提携館である中国の浙江自然博物館との恐竜化石調査地を探すための予備調査を行いました。

大同市を拠点に北・東・西方向へ調査の脚を伸ばしましたが、移動に時間がかかったため、各地での調査にはあまり時間をかけることができませんでした。それでも、数力所で恐竜化石を発見でき、今後本格的な発掘調査ができそうなポイントを定めることができました。

今後の本調査にむけて、現地や浙江自然博物館と協議を行っていく予定です。(千秋利弘)



中国山西省恐竜調査の様子



# ダイノメイトだより

## 恐竜博物館をサポートする NPO法人福井恐竜博物館後援会

今回は福井恐竜博物館後援会の伊藤一康事務局長にダイノメイトと後援会の現状についてお話を伺いたいと思います。



——「まずは、後援会について簡単にご紹介ください。」

**伊藤**「私も後援会の一番の目的としては、恐竜博物館の支援活動です。恐竜博物館はさまざまな活動を行っておられますけれども、県立の組織であることもあって細かいところとかソフトなところまでなかなか手が回せません。そういった点を支援していきましょと、地元の有志が集まって後援会は結成されました。理事長には縁あって恐竜漫画家のヒサクニヒコ先生にお願いしています。」

——「では支援の一環としてのダイノメイト活動ということですね。」

**伊藤**「ええ。ダイノメイトはいわゆる博物館友の会です。恐竜の友達という意味のダイノメイトという愛称にしています。現在200名強の方に入会いただいています。もっとも家族会員枠がありますので正確ではないんですが。」

——「ダイノメイトになるとどんな特典がありますか？」

**伊藤**「博物館の観覧券やショップでの割引と、館報や催事情報の送付、会員イベント開催、でしょうか。本当はもっと特典を増やしたいというところと交渉しているのですが、不況の折、なかなか良い返事がえられなくて。」

——「そうですね。ダイノメイトの魅力アップのためにもがんばってください。ところで会員イベントはどんな内容ですか？」

**伊藤**「2つあって、ひとつは北谷の恐竜化石発掘現場での発掘体験と特別展見学の集いです。毎年人気ですが、残念ながら今年は既にメ切りとなっております。昨年から第3次調査が始まっていますので、注目度も高いのでしょうか。もうひとつは海外恐竜体験の旅です。今年は11月にタイへ参ります。こちらでも現地の発掘現場へお邪魔して発掘体験ができるということで、私自身も楽しみにしております。」

——「では、最後にひとことお願いします。」

**伊藤**「皆様、ダイノメイト会員になりませんか。恐竜博物館は非常に魅力ある博物館です。その博物館をより楽しむお手伝いをしていきたいと考えております。」

——「今日はどうもありがとうございます。」

## フクイサウルス 復元フィギア発売！



福井県立恐竜博物館オフィシャルモデル第2弾としてフクイサウルス骨格モデル、復元モデルが発売されました。価格は1,200円で、福井県立恐竜博物館のミュージアムショップおよびオンラインショップでだけお求めになることができます。

恐竜博物館展示の復元模型を作成なさった造形師荒木一成先生が原型を担当され、食玩などフィギュアで有名な(株)海洋堂が制作を手がけています。全長120mmとはいえリアル感たっぷり、子供だけでなく、大人の方の鑑賞にも堪える出来栄です。先に販売されているフクイラブトルのフィギュアとども、ぜひお求めください。

## 後援会企画

### 海外恐竜体験の旅募集

今年の海外恐竜体験の旅は微笑みの国タイで、福井県立恐竜博物館とタイ木材化石鉱物資源博物館とのあ共同調査に参加させていただきます。

実際の発掘現場で、あなたの手で恐竜化石を発見してみませんか？タイ木材化石鉱物資源博物館の見学も予定しています。

#### —実施時期—

平成20年11月20日(木)~24日(月)

#### —旅行代金—

139,000円(大人・子供同額 1名様)

#### —日程—

20日 関空→バンコク→コラート泊

21日 終日：発掘体験

22日 終日：発掘体験、タイ木材化石鉱物資源博物館見学

23日 バンコクで市内観光

(サイアムニラミッド等)→機内泊

24日 関空到着→解散

#### —お問い合わせ・お申し込み—

JTB中部福井支店 水野・山根まで

TEL 0776-27-7712

FAX 0776-26-7965

<http://www.jtb.co.jp/shop/fukui/>

## ダイノメイト会員を募集しています

ダイノメイトは恐竜や化石の大好きな人たちの集まりです。あなたもダイノメイトになってみませんか？ショップでの割引などの特典もありますよ。

—一般会員 年額2,000円

—子供会員 年額 500円

—家族会員 年額3,000円(同一世帯で5人まで)  
有効期間は、7月1日から翌年6月30日まで(毎年更新)

郵便振替用紙に、住所、氏名、生年月日、会員の種類を明記されて下記口座に振り込んでください(手数料はご負担願います)。

郵便振替口座 00770-9-47730

加入者名 福井恐竜博物館後援会 ダイノメイト

### 特別展関連行事

#### 特別展ツアー

##### ■「特別展の展示解説」

日時／9月14日(日)13:00～14:30  
10月13日(月祝)13:00～14:30  
内容／特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。

場所／特別展示室

対象／20名

申込／電話、FAX、E-mailにて

### 博物館講演会

##### ■「サンゴ礁が語る気候変動の歴史

—国際サンゴ礁年にあたり—

日時／10月12日(日)14:00～15:30  
内容／最近のサンゴ礁をとりまく海の環境変化は、地球温暖化などとの関係もあわせて私たちの関心事となっています。国際サンゴ礁年にあたり、過去から現在までの気候変動の歴史をサンゴ礁の研究から紹介します。

講師／金沢大学名誉教授 小西 健二 先生

場所／講堂

※申し込み不要です。

### 博物館セミナー

#### 恐竜博物館の研究最前線！

場所／研修室

申込／電話、FAX、E-mailにて

##### ■「小さくなって氷河期を過ごす

—幼形化とネズミルカ科—

日時／9月21日(日)13:00～14:30  
内容／海に住むイルカ・クジラの進化史は、海洋環境の変動と密接に結びついているように見えます。今回はネズミルカ科という小型のハクジラのグループを例に挙げて話します。

講師／一島 啓人

##### ■「南米チリの木材化石を調べる

—暖かかった南極から逃げた植物たち—

日時／10月19日(日)13:00～14:30  
内容／恐竜時代は南極は暖かく森林が成立していました。南米チリ南端の木材化石の調査によって、その南極から北の方に逃避していった植物たちが見えてきました。

講師／寺田 和雄



※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の場合は抽選となる場合があります。  
※当館 Web サイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

##### ■「手取層に残された過去の記録を探る」

日時／11月16日(日)13:00～14:30  
内容／アンモナイトなどの化石や地層に残された過去の記録を調査し、手取層が堆積した時代の環境変遷を考えてみます。  
講師／後藤 道治

### 博物館自然教室

##### ■「骨をしらべよう！」

日時／11月23日(日祝)13:00～15:00  
内容／現生動物の骨は絶滅動物を調べるときの基本となります。

担当／一島 啓人

場所／実習室

対象／小学生以上 20名

申込／往復ハガキ、E-mailにて

##### ■「恐竜の歯を観察しよう！」

日時／12月28日(日)13:00～15:00  
内容／恐竜の歯のレプリカを作り、種類によってどのような特徴があるのか観察します。

担当／宮田 和周

場所／実習室

対象／小学生以上 20名

申込／往復ハガキ、E-mailにて

### 野外観察会

##### ■「秋の九頭竜川流域の地学散策」

日時／11月2日(日)9:00～16:00  
内容／福井県の中・古生代の地層とその周辺の地質を観察しながら、化石採集を楽しみます。

担当／後藤 道治、一島 啓人、千秋 利弘

場所／福井県大野市

対象／20名

申込／往復ハガキ、E-mailにて



### 恐竜ふれあい教室

場所／実習室

対象／4歳から小3の親子 15組

申込／往復ハガキ、E-mailにて

##### ■「親子で恐竜模型をつくろう！」

日時／9月7日(日)13:00～15:00  
内容／恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。

講師／恐竜造形家 荒木 一成 先生

##### ■「親子で化石のレプリカをつくろう！」

日時／9月28日(日)13:00～15:00  
内容／石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製を作ります。

担当／小島 啓市



##### ■「親子で恐竜キーホルダーをつくろう！」

日時／10月5日(日)13:00～15:00  
内容／パソコンで恐竜の絵を描いて、キーホルダーを親子で作ります。

担当／千秋 利弘

##### ■「親子で化石のレプリカをつくろう！」

日時／11月9日(日)13:00～15:00  
内容／石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製を作ります。

担当／小島 啓市

##### ■「親子で化石の消しゴムをつくろう！」

日時／12月7日(日)13:00～15:00  
内容／消しゴムになる粘土でアンモナイトや三葉虫の消しゴムを作ります。

担当／砂子 英恵



### ギャラリートーク

当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックしてください。

### 編集後記

今夏の特別展では、恐竜が絶滅して新しい哺乳類時代への進化の過程を分かり易く紹介しています。このような生物界の変化というのは、発掘される化石から知ることができるロマンの世界であるともいえます。これからも夢を求めてより多くの皆様が来館くださいますよう、お待ちしております。(伊藤一康)